

WING DAILY

Airline & Aviation E-mail News

発行所 航空新聞社：WING DAILY編集部
〒107-0052 東京都港区赤坂4-8-6 赤坂余湖ビル3階
TEL(03)3796-6647 FAX(03)3796-6643
URL=<http://jwing.net> E-mail=mail@jwing.net
購読料 半年34,560円 年間64,800円(消費税含む)

【HEADLINE NEWS】

★快適なフライト、AMXの新型機ATR42-600型 新たな翼で親子イルカが天草と各地を結ぶ

【飛行経路：熊本→伊丹、AMX801便】真っ青な親子イルカが描かれた機体が、ふわりと空に浮かび上がる。プロップ機特有のエンジン音と共に、天草エアラインの新「みぞか号」が4月15日、阿蘇熊本空港を飛び立った。離陸は非常にスムーズ。しっかりとした加速と共に、力強く滑走路を蹴った。客室は報道関係者などを含め満席。空は快晴だ。伊丹空港に向かう経路の一部で、強風の影響で機体が揺れることが予想されるとの機内アナウンスが流れるが、新型機による快適なフライトが期待できそうだ。

旋回すると、眼下には益城町や熊本市街など、フライト前日の夜に発生した最大震度7を記録した大地震の被災地が広がっている。どれほど大きな被害が発生しているのか。被災地に想いを馳せながら、機体は旋回しながら機首を伊丹空港に向けた。(※その後、16日未明にマグニチュード7.3の本震が発生)

愛され続ける親子イルカ「みぞか号」

テイク・オフより遡ること約数十分。熊本空港のターミナルで、天草エアラインの新型機ATR42-600型機のランディングを待っていた。私が搭乗する予定の機体は、天草エアラインの本拠地である天草空港から熊本空港に向かって来ている。記憶が曖昧なところがあるが、時刻は4月15日の午前10

時30分を過ぎた頃だったか。熊本空港の7番搭乗口前の窓ガラスにへばりつく。カメラを構えた同業の報道陣も「みぞか号」の飛来を待ち侘びている。

バズーカのような望遠レンズの付いたカメラを抱えた複数の人間(報道陣)が食い入るように空を眺めているのを見て、何事か、と興味を抱いた一般旅客たちも、足を止める。

私の近くには、小さな男の子を連れた3人の家族連れもいる。

「ほら、見てて。もうすぐイルカさんが来るよ」と、小さな男の子を肩車した父親が、男の子に呼びかける。男の子も、早く来ないかと待ち遠しそうで、どこことなく微笑ましい。

すると間もなくして、遠くの空に1機の機影が姿をみせた。

「来たぞ！来た、あれだ！」と報道陣が一齐にカメラを構え、シャッターを切り始める。小さな点だった機影は、少しずつ大きくなって、今や肉眼でも天草エアラインの新型プロップ機の姿をはっきりと捉えることができるようになった。

機体は旋回して熊本空港に着陸。スムーズに着陸した機体が眼前に現れると、シャッターを切り続ける私の横で、小さな男の子が「わあ〜っ」と嬉しそうに歓声を上げ、親子イルカが描かれた「みぞか号」を指差している。

天草エアラインの新型機ATR42-600型機は、去る2月20日に就航したばかり。ATR機の導入は、天草エアラインが本邦初のチャレンジだ。天草エアラインの保有機数は、わずかに1機。この1機のATR42-600型機が、天草エアラインの翼の全てだ。

天草エアラインの機体は、「みぞか号」という愛称で呼ば



天草エアラインの新型機ATR42-600型

れている。愛らしいイルカの塗装が特徴だ。先代の「みぞか号」(Q100型)も、機体全体をイルカに見立てた塗装で人気を博した。ちなみに、「みぞか」とは、天草地方の方言で、「可愛い」という意味だそうだ。

天草エアラインによれば、イルカを機体デザインに採り入れたのは1999年のこと。全国1334点の応募のなかから、地元の小学生が考案したデザインテーマ「イルカと未来へ」に決定した。「昔からイルカが人々と一緒に暮らすほど天草は良いところで、イルカと自然の美しさ・素晴らしさをたくさんの人に知ってもらいたかった。イルカと一緒に未来へ前進しようと言う意味を込めた」とのことだ。

当時の機体は、天草の海を生き生きと飛び跳ねているイルカが描かれていたという。

その後2012年、天草市出身の放送作家である小山薫堂さんが企画・出演するテレビ番組で、天草エアラインの機体を塗り替えるプロジェクトが開始。新機体デザインを公募し、応募数269点の中から、デザイナーの横田青史さん(神奈川県)のデザインに決定。旧デザインでも親しまれた天草のイルカを引き継ぎ、機体全体をイルカに見たて、仲むつまじく空を飛ぶ親子イルカが描かれた。

タキシングをしながら搭乗口に徐々に近づく機体に、「可愛いね〜」と親子。先代の「みぞか号」同様、家族連れなど幅広い年代に親しまれそうだ。

さあ、搭乗時間だ。待ちに待った機内の雰囲気は如何か。その前に、まずは機体の外観を撮影しなければ。

天草エアラインのATR42-600型機に搭乗するためには、ターミナルの搭乗口を階段で降ってエプロンを徒歩で移動する。初夏を思わせる日差しと真っ青な空が広がり、ふんだんに日の光を浴びた「みぞか号」の爽やかなブルーが、レンズに良く映える。カメラ映りはバッチリだ。

ATR自慢の最新客室

イタリアのデザイン会社によりスタイリッシュに



天草エアラインでは地元天草の菓子などを機内で配布

いざ、機内へ。天草エアラインの客室は、ATR社の自慢の最新客室プロダクト仕様。この客室は、イタリアのデザイン会社ジウジアーロがデザインした「ARMONIA」。人間工学的見地に基づいた設計が施されたほか、イタリアらしいスタイリッシュなデザインで、足元スペースが広いスリムシートが印象的だ。機内照明もLEDが採用されており、スタイリッシュなデザインと相まって、落ち着いた雰囲気を醸し出している。



先代機に比べて通路やビンが広くなり、作業効率が向上

このフライトには、来日したATR社関係者らも搭乗。外国人の彼らは、背が高い人も多い。その彼らがまっすぐ立っても、通路では問題ない天井高(最大1.91メートル:75.2インチ)が確保されている。

新「みぞか号」は全48席仕様。先代「みぞか号」は39席仕様だったことから、9席の増席だ。座席配列は、最前列が後ろ向きの2席、その後ろに横2-2配列の11列が配置され、最後尾の座席は2席のみ設置されている。私の席は、後方席の11C。通路側の席だ。満席ながら、窮屈な感じはしない。各座席の横幅も十分に快適だ。

ATR社によれば、胴体径は2.26メートル(89インチ)から2.57メートル(101.2インチ)。通路と横2-2配列分の直径では、ボーイング、エアバスの単通路機と比べて同程度のスペースを確保しているという。

今回のフライトは、報道陣が多数体験搭乗するというイベントも兼ねていることから、

ちょっと特殊。客室乗務員は通常1名体制でオペレーションされているが、このフライトでは2名の客室乗務員が搭乗した。

ちょっと変わっていると言えば、この機体の特徴の一つとして、機体後部に客室乗務員用のシートが設置されていることだ。

天草エアラインの先代「みぞか号」のQ100型機では、前方に客室乗務員用のシートが設置されていた。

「これまで前方からお客様一人ひとりの顔をみながら乗務することができました。ATR機では、それができません。席に座っていると、お客様の頭を眺めることになります」と、この日、サービスを担当してくれた客室乗務員。

一方で、「(Q100型機と比べ)通路が広く、オーバーヘッド・ビンも拡大されました。そのため、サービスもしやすくなりましたし、お客様の乗降もスムーズです」と、オペレーション効率が向上したことに言及した。通路拡大とビンの拡大によって、旅客がスムーズに乗降することができるようになったことで、定時性などの運航品質の向上にも繋がるのが期待できそうだ。

ターボプロップ機であるATR機は、ジェット機に比べて運航高度が低いことが特徴の一つだ。一般的にジェット機の飛行高度は、3万5000フィートから4万フィート。一方、ATR機の飛行高度は2万フィートに留まるとのことだ。そのため、客室内気圧は、広胴機や単通路機、リージョナルジェット機といった機体が6000フィートから7200フィートで設定されていることに対して、ATR機は3800フィートと、より地上に近い客室環境となっている。

搭乗してみると、その効果をもすぐに享受することができる。個人差があることだが、



機体後方のギャレー・スペース

航空機に搭乗すると、上昇・下降中にしばしば耳鳴りが生じることがあるが、低い高度を飛ぶATR機では、そうしたことはなかった。

巡航中、客室内に響くエンジン音も静か。ATR42-600型機のエンジンは、プラット&ホイットニー・カナダ社製のPWC127M。

ATR社によれば、とくに外部騒音では国際民間航空機関(ICA0)のチャプター14に比べても、9デシベル低いとのこと。ジェット機と比べれば、13デシベル低いという。外部騒音が小さいことは、空港へのアプローチ時などに、周辺住民に与える影響を、今まで以上に小さくすることができることに繋がる。

現在は国内でAMXでのみ乗れる最新鋭機

この日のフライト経路は熊本→伊丹で、九州を横断して四国へ豊予海峡を抜けた。その後、高知の室戸岬を横目に、針路を徐々に北の伊丹へ。すぐに大阪の街が広がりはじめた。天草エアラインによれば、熊本伊丹線では伊丹→熊本間のフライトの方が、眼下に広がる景色はオススメとのこと。低高度を飛ぶターボプロップでは、瀬戸内の島々と海を美しく見ながら飛ぶことができるという。

それは次回のお楽しみとして、伊丹に向けて最終のアプローチ態勢に。アプローチに際しては、強風の影響で多少揺れた。それでもATRの最新鋭機は、力強く乱流を乗り切っていく。

そして、タッチダウン。ターボプロップ機のATR機は、離着陸に必要な滑走路距離が短い。素早くタキシングへと移行し、ターミナルビルそばの駐機スポットに。

天草は、まだまだ訪れたことがある人が少ないかもしれない。独特なキリシタン文化が築かれたほか、島原の乱で有名な天草四郎時貞に関連する史跡、イルカウォッチング、温泉、さらには豊かな自然やグルメなど、観光資源も豊富だ。

また、大阪・伊丹から天草エアラインで熊本空港に降り、熊本・大分を旅行をしてみるのも良い。熊本地震で被災した両県を、落ち着きを取り戻した際に、観光で訪れることで、地元経済の復興支援にも繋がることだろう。

来年には日本航空(JAL)グループの日本エアコミューター(JAC)がATR42-600型機の運航をスタートする。しかし、今のところ国内で唯一、ATR42-600型機に搭乗することが可能なエアラインは、天草エアラインのみだ。

天草エアラインの最新鋭機ATR42-600型機のフライトは、快適そのもの。天草エアラインは、天草熊本/福岡、熊本-伊丹間で運航中だ。是非、天草エアラインの最新鋭機ATR42-600型機で、天草地方や熊本などを訪れてみては如何か。

【航空関連ニュース】

★熊本空港が一部到着便のみ再開、出発はいぜん欠航 ターミナル閉鎖で検査できず、屋外動線で対応

震災により全便欠航していた熊本空港で4月19日、一部到着便のみ運航を再開した。11時現在運航を予定しているのは18便。状況により今後増える可能性もある。同空港は滑走路など空港機能が維持されているものの、度重なる地震の影響でターミナルビルの損壊が拡大。手荷物検査、保安検査など

実施することができないため、出発便はいぜん全面欠航、一部到着便のみ運航するに至った。

航空局では熊本空港の対応について、これまで管制官は気象事務室へ避難し、小型の無線機で航空保安業務の提供を行っていたが、19日07時30分から管制塔での業務を再開した。ターミナルビルについては終日閉鎖としているため、到着旅客については、通常と異なるかたちで誘導が行われている。旅客の動線は屋外となっており、通用口を出たところなどで手荷物返却などを行っている。

また空港の利用について、熊本空港では24時間運用(通常07時30分-21時30分)を24日07時30分まで継続することが決まっているが、同じく24時間運用を行っていた大分空港では、19日22時30分をもって24時間運用を終了する。しかしながら、20日から23日の期間は、同空港の提供開始時間を1時間前倒しして、06時30分からの運用開始とする。

19日に運航する熊本到着便は、全日空(ANA)が臨時便も含め12便になる。羽田出発が1303/641/643/645/647/649便の6便で、伊丹出発が521/1627/527/529便の4便、中部出発が331/333便の2便だ。11時現在、すでに運航した羽田発1303便の旅客は38人で641便が100人、643便が87人だった。伊丹発521便では旅客48人が搭乗し、中部発331便は22人だった。

日本航空(JAL)では、羽田発が0627/0633便の2便で、伊丹発が2385便の計3便を運航する。0627便は旅客148人が搭乗した。

ソラドエア(SNA)は羽田発13/17便の2便を運航する。フジドリームエアラインズ(FDA)では、小牧発の325便を運航する。ジェットスター・ジャパン(JJP)では19日11時時点では運航について検討中。運航決定となれば、16時30分成田発の615便を運航することになる。天草エアラインは(AMX)はすでに19日の天草・伊丹-熊本線欠航を決めている。

《4月19日熊本空港到着便》

(ANA)

▼便名:ANA1303便(臨時便)=05時45分羽田発→07時30分熊本着

▼便名:ANA641便=08時30分羽田発→10時15分熊本着

▼便名:ANA643便=10時00分羽田発→11時45分熊本着

▼便名:ANA645便=14時50分羽田発→16時35分熊本着

▼便名:ANA647便=17時40分羽田発→19時25分熊本着

▼便名:ANA649便=18時55分羽田発→20時45分熊本着

▼便名:ANA521便=07時40分伊丹発→08時55分熊本着

▼便名:ANA1627便=14時20分伊丹発→15時35分熊本着

▼便名:ANA527便=16時40分伊丹発→17時45分熊本着

▼便名:ANA529便=19時35分伊丹発→20時45分熊本着

▼便名:ANA331便=08時25分中部発→09時45分熊本着

▼便名:ANA333便=12時55分中部発→14時25分熊本着

(JAL)

▼便名:JAL0627便=10時10分羽田発→11時55分熊本着

▼便名:JAL0633便=15時55分羽田発→17時40分熊本着

▼便名:JAL2385便=11時30分伊丹発→12時40分熊本着

(SNA)

▼便名:SNA13便=12時15分羽田発→14時00分熊本着

▼便名:SNA17便=16時25分羽田発→18時05分熊本着

(FDA)

▼便名:FDA325便=13時10分小牧発→14時30分熊本着
(JJP:11時現在運航検討)

▼便名:GK615便=16時30分成田発→18時30分熊本着

★熊本地震、ドクターヘリは最大11機参集 病院間搬送に従事、18日は3機に

今回の熊本地震で熊本県は4月16日午前4時、半径300キロ以内に位置するドクターヘリの出動を要請、熊本県災害対策本部の資料によると、16日には11機のドクターヘリが参集して病院間搬送を実施した。17日には8機となり、18日午後には熊本、福岡、長崎のドクターヘリが引き続き熊本県での病院間搬送に従事しているという。

★天草エア、天草福岡で本日1往復の臨時便 天草熊本、熊本伊丹は欠航

天草エアラインは、熊本地震の発災を受けて、本日4月19日に、天草福岡間で1往復便の臨時便を運航することを決めた。通常のオペレーションにおいては、天草福岡線は1日3往復6便の運航だが、これに本日は1往復2便を追加運航する。

その一方、天草熊本線および熊本伊丹線については、19日の運航を欠航することを決めた。

なお、欠航が決定した便の予約数は合計で9名だった。

★JAL、マイクロソフトと訓練ツールを開発 ホログラフィックでコックピット、エンジンを再現

日本航空(JAL)はこのほど、マイクロソフトコーポレーションが開発した新しいホログラフィックコンピューター「Microsoft HoloLens (HoloLens)」を活用したアプリケーションのコンセプトモデルを開発した。このモデルは、運航乗務員および整備士の2つのコンセプトを具現化する初期的な開発(Proof of Concept)を行ったもの。スタッフの訓練ツールとして期待できることから、今後はさらなる開発を進めて実用化を目指し、さらにそのほかの領域でも活用の検討を進める。

JALはアジア初、またエアライン企業としても初となるマイクロソフトとのビジネスパートナー企業を締結。HoloLensの活用について2015年8月から検証を進めてきた。HoloLensを活用したJALのアプリケーションは、737-800運航乗務員訓練生用トレーニングツールと、787用エンジン整備士訓練用ツールの2つを開発した。

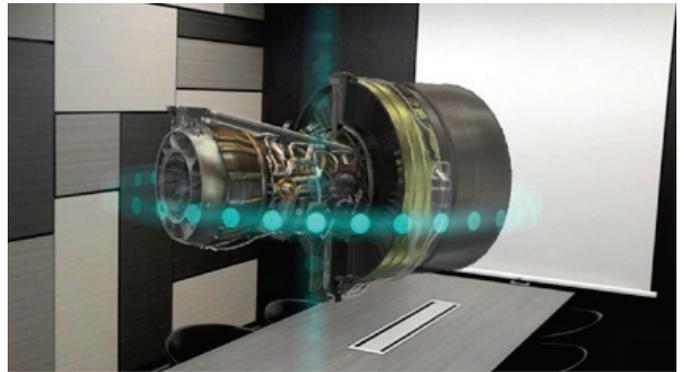
JALでは、新たな技術の活用を推進して、運航サービス高



ホログラフィックコンピューター「Microsoft HoloLens」
(提供:JAL)



運航乗務員訓練生用トレーニングツールとして開発したアプリケーション画面イメージ(提供:JAL)



整備士用ツールのイメージ(提供:JAL)

品質化と、新たなビジネス変革に取り組む考え。運航乗務員用のツールでは、HoloLensを装着することで、時間と場所を選ばずにコックピット空間を体感することができる。運航乗務員訓練生は、副操縦士昇格訓練の補助的なトレーニングツールとして活用することができる。現在、同訓練の初期段階では、主にコックピット内の計器・スイッチ類を模した写真パネルに向かい、操縦手順を学習している。今後HoloLensの進化・導入が進めば、ホログラムとして目の前に浮かび上がる精細なコックピット内の計器・スイッチ類で操作手順を学ぶことができる。さらに、HoloLens上の映像・音声ガイダンスに従い、体を使ったシミュレーションを行うことで、訓練の効果促進も期待できる。

整備士のツールは、HoloLensを通じて目の前にエンジンを映すことができる。そのため養成訓練では、エンジン構造、部品名称、システム構造などの学習において、時間・場所を選ばずリアルに体験することができる。整備士の訓練は現在、航空機が運航していないスケジュールを活用するなど、限られた時間の中で訓練を行っている。また、エンジンパネル内部の教育については、教科書などの平面図で実施しているところ。今後、HoloLensを活用することで、自由な時間設定の中でより質の高い訓練を実施することが可能になる。

マイクロソフトが開発したHoloLensは、Windows10を搭載し、外部機器と接続せずワイヤレスで使用できる、制約のない初のホログラフィックコンピューター。リアルな空間の中で、デジタルコンテンツの操作などが可能となる。現在は、Development Edition(開発者向けセット)が米国・カナダで提供が開始されているところ。日本での提供は未定ながら、今後の普及が期待される。

※HoloLensサイト

https://www.microsoft.com/microsoft-hololens/en-us

★所沢航空発祥記念館、陸軍97戦レプリカを展示 ドラマ撮影に使用された実物大の模型

所沢航空発祥記念館は4月19日より旧陸軍97式戦闘機(97戦)の実物大レプリカの展示を開始する。これは開催中の特別展「時代を翔る日本の傑作機たち」の追加展示として公開されるもので、昨年8月テレビ朝日系で公開されたテレビドラマ「妻と飛んだ特攻兵」の撮影のために製作された実物大レプリカ。所沢飛行場にも97戦実機が飛来した記録があるという。

所沢航空発祥記念館は西武新宿線「航空公園駅」東口から徒歩8分。入館料は展示館大人510円、小人100円、映像館大人620円、小人260円で共通券は大人820円、小人310円。休館は毎週月曜日だが、5月2日は開館する。

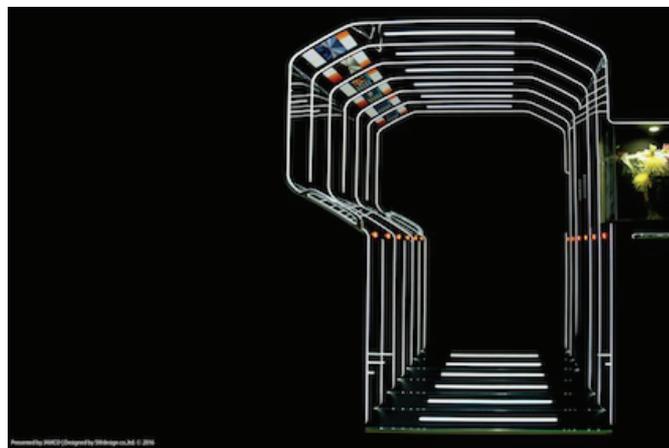
97戦は1935(昭和10)年に陸軍が競争試作を指示し、軽量化を徹底した中島飛行機の試作機が1937年(皇紀2597年)に97式戦闘機として制式採用された。運動性が高く、ノモンハン事件、日中戦争から太平洋戦争初期に実戦で活躍した。製造機数は練習機として製造が続けられてた分も合わせて3300機以上に達したという。

【航空工業/宇宙関連ニュース】

★ジャムコ、未来の航空機用厨房設備Galley Xを提案 "スマートキッチン"でおもてなし、デザイン優れた未来の厨房に

ジャムコはこのほど、未来の航空機用厨房設備「Galley X」を提案した。「Galley X」は、ジャムコとデザイナーの和田智氏(SWdesign社)が共同で開発したもので、収納量を減らさずにギャレーの床面積を縮小。乗客のスペースを確保できるカートリフターやタッチパネル式コントローラーなどシンプルでありながら機能的なデザインにより、革新的な機内の「おもてなし」を表現したという。あくまでコンセプトであって、現段階で「Galley X」が生産ラインにのる計画はない。

従来のギャレー・スペースと言え、客室乗務員が作業効率良く使いこなすことができる"機能性"を追求した印象だ。その他にも、"耐久性"、"軽量"など設計に際して重視すべき項目があって、見方は様々あると思うが、個人的にはどちらかと言え"地味"な空間である印象を受けてしまう。しかし、ジャ



機能的ながらデザイン性にも優れていることが特徴的だ
(提供：ジャムコ)



収納量を落とすことなく、ギャレー・スペースを減らすこともできる(提供：ジャムコ)

ムコが提案した「Galley X」は、こうした印象を一新することになりそうだ。

ジャムコによれば、「Galley X」はモジュール・レイヤー・システムを採用。横に5列、6列、7列と柔軟にモジュールを組み替えることで、ギャレーをカスタマイズすることができる。さらに、ファサードは着せ替えることで、高級感を醸しだしたり、イベントにあわせた内装にすることもできる。

また、カートリフターは、収納量を減らさずに、ギャレーの床面積をなるべく縮小する工夫を施した。これにより、乗客のスペースを確保することができるようになり、カートをギャレー上部まで持ち上げ、下段にもう一台カートを収納することで、同じ数のカートを確保しながら、床面積を減らすことができるようにした。このカートリフターは、ZIP CHAIN ACTUATORを採用しており、音が静かなことも特徴とのことだ。

さらに、ギャレーの天井部にはデッドスペースがあることにも着目。コンテナリフターを装備することで、スタンダードコンテナを天井部まで持ち上げ、現在と比べてコンテナを1つ追加収容できるようにする。

その他にも、集中ロックシステム、6面モニター、タッチパネル、そして照明やショーケースなどを備えることで、機能的かつデザイン性に優れたギャレーとすることが可能だ。

なお、ジャムコは昨年6月、「Galley X」のデザイナーと同



ジャムコが提案する「Galley X」(提供：ジャムコ)

じ和田氏がデザインした未来の航空機用ラバトリー「Lavatory X」のモックアップを発表。洗練されたデザインと、タッチレスや人感センサーなどの技術を融合したコンセプトを発表していた。

ジャムコが「Galley X」および「Lavatory X」を発表した背景には、日本や新興国などでLCCが台頭してきた一方、大手エアラインなどを中心に、ギャレーやラバトリーなどで新しい製品を求める声があったという。ジャムコとしては提案力を強化することで、競争力を強化する方針で、こうした声に応えるためにも、未来の航空機向けに新しいコンセプトを提案したという。

★ジャムコ、エアバスのサプライヤー賞を受賞

ジャムコはこのほど、エアバスからAirbus Supplier Support Rating 2015アワードを受賞した。

ジャムコグループでは、内装品関連ではエアバス機向けにギャレー及びギャレーインサート(厨房設備に搭載する調理用機器など)を供給。エアバスから、信頼性の高い機器や関連サポートを継続的に提供する能力及び顧客支援が評価され、2015年、顧客満足度向上に顕著な貢献を果たしたとして、BFEサプライヤー25社中ジャムコを含めた6社が選抜され受賞したという。ちなみにジャムコは、総合順位で3位、モニュメント部門で2位の成績だった。

【防衛関連ニュース】

★熊本地震派遣自衛隊約2万名に

航空機はのべ291機、陸自航空は全国から派遣に

引き続き余震の続く中、自衛隊の熊本地震災害派遣部隊は2万名規模と也なり4月18日午後5時現在、航空機の派遣は86機、発災以来のべ291機に達し、陸自では沖縄を除く全国の航空科部隊全てから派遣がおこなわれている。海上自衛隊では輸送艦「おおすみ」、「しもきた」、大型ヘリ搭載護衛艦「ひゅうが」、「いずも」など護衛艦8隻が大分県、熊本県沿岸に派遣され、輸送艦は物資を陸揚げしている。航空自衛隊でも三沢ヘリ空輸隊のCH-47の派遣、偵察航空隊のRF-4E偵察機による被災地の撮影などが新たな派遣任務に加わった。

自衛隊航空機の派遣機数は16日69機、17日118機、18日86機となっている。



熊本空港における被災地の映像を撮影、伝送する陸自のUH-1Jヘリ映伝機(提供:陸上自衛隊)

18日から派遣部隊に加わった航空部隊は次のとおり。

《陸自》

▼第4飛行隊(目達原) ▼北部方面航空隊(丘珠) ▼第11飛行隊(丘珠) ▼東北方面航空隊(霞目) ▼第12ヘリ隊(相馬原) ▼東部方面航空隊(立川) ▼第13飛行隊(防府) ▼第1ヘリ団(木更津) ▼航空学校(明野)

《海自》

▼第211教育航空隊(鹿屋)

《空自》

▼第3輸送航空隊(美保) ▼偵察航空隊(百里) ▼三沢ヘリ空輸隊

【海外メーカーニュース】

★エアバス、アジア・トレーニング・センターが稼働 JALらアジア太平洋地域の顧客17社が利用

エアバスは4月19日(現地時間)、シンガポールのエアバス・アジア・トレーニング・センター(AATC)が、去る4月18日に正式に稼働を開始したことを発表した。この訓練センターは、エアバスにとって世界4番目の訓練センター。エアバス全機種の型式限定訓練やリカレント訓練などを提供する。エアバスによれば、最終的に8基のフル・フライト・シミュレーターを設置する方針で、年間1万人以上の訓練生を訓練することができるようになるという。既に日本航空(JAL)を含め、アジア太平洋地域の17社が、AATCのサービスを利用する契約を締結中だ。

この訓練センターは、エアバスが55%、シンガポール航空が45%出資するかたちで、シンガポールのセクタ・エアロスペース・パークに建設された。

9250平方メートルもの面積を有するエアバス・アジア・トレーニング・センターは、エアバスにとっては、本拠地の仏トゥールーズのほか、米国のマイアミ、そして北京に次ぐ、世界4番目の訓練施設となる。

前述したように、8基のフル・フライト・シミュレーターが設置される計画にあるが、このうちA350XWB用が3基、A380が1基、A330向けが2基、そしてA320用を2基設置する計画だ。その他にも、6基のコクピット訓練機器や大型の教室といった設備も整備する。

JALは恐らく、今後導入を進めるA350XWB関連で、この新しい訓練センターを利用することが推察される。

なお、エアバス・アジア・トレーニング・センターの正式稼働を前に、チャンギ空港近くのシンガポール航空の訓練セ



シンガポールに開設されたエアバス・アジア・トレーニング・センター(提供:エアバス)

ンターで一時的に訓練コースを提供していたが、今後は段階的にセレーターの新訓練センターに移行する。

(AATCを利用することが決定済みの17社)

▼日本航空▼エアカラン▼バンコクエアウェイズ▼セブ・パシフィック航空▼チャイナエアライン▼フィジーエアウェイズ▼クウェート航空▼ライオンエア▼PALエクスプレス▼フィリピン航空▼カンタス航空▼ロイヤルブルネイ▼カタール航空▼タイガーエアウェイズ▼ベトナム航空▼ヴァージン・オーストラリア▼シンガポール航空

★ボーイング、アパッチ117機を再生で陸軍と合意 AH-64DをAH-64Eバージョンに改修、各種支援も合わせ

ボーイングはこのほど、米陸軍とAH-64Dアパッチ117機を能力の向上した最新のAH-64Eモデルに再生することで合意、引き続き攻撃ヘリメーカとしての地位を保った。合意内容にはミリ波レーダー「ロングボウ」の搭乗員用訓練装置、後方支援、スペア部品などを含み、総額は約15億ドルと見積もられる。

米陸軍は690機のAH-64Eアパッチを調達する計画で、このうち今回の発注を含めて290機が発注中となっている。今回の合意は既存契約のAH-64Eのロット5、ロット6フルレート生産契約の契約変更となる。陸軍は117機のAH-64Dをアリゾナ州メサのボーイング社工場に搬入し、AH-64E形態に改修する計画。陸軍はAH-64AアパッチをAH-64Dに再生する事業に続いて、AH-64DをAH-64Eに改修するもの。

AH-64AからAH-64Dへの再生は、胴体は使用するものの、電子機器は総入れ替えるので、改修というより再生と呼ぶ方がふさわしいものであった。AH-64DとAH-64Eの相違点も多く、主回転翼が複合材製に変わり、トランスミッションが変わる他、電子機器もかなり変更がある。

【海外エアラインニュース】

★香港航空、香港-成田線へ3年半ぶりの就航へ 1日2往復で7月から、成田の香港線週105便に

香港航空は7月1日から、1日2往復のダブルデイリーで香港-成田線の運航を開始する。香港航空にとって、同路線の就航は2013年1月以来3年半ぶりの復便であり、機材はA330-300を使用する。

成田空港では香港航空の就航によって、香港線の運航が週105便に達することになる。さらにこのたびのダブルデイリー運航は、航空需要の高い香港や中国南部からの旺盛な訪日需要を取り込み、さらに日本人にとっても同路線の選択肢増加などが期待される。

(運航ダイヤ)

▼便名:HX608便=09時15分香港発→14時55分成田着

▼便名:HX609便=15時55分成田発→20時05分香港着

▼便名:HX610便=15時30分香港発→20時55分成田着

▼便名:HX611便=09時30分成田発→13時30分香港着

★大韓航空、ロシア2都市への運航を再開

大韓航空は、ロシア2都市(サンクトペテルブルク、イルクーツク)への運航を再開する。どちらも冬期運休していた

路線の再運航で、仁川空港で日本路線との乗継が可能だ。仁川-サンクトペテルブルク線は週3便の運航で、使用機材はA330-200型機またはA330-300型機。一方、仁川-イルクーツク線は週2便の運航で、使用機材は737-900ER型機。なお、運航予定スケジュールは以下のとおり。

【仁川→サンクトペテルブルク】▼929便=仁川17時55分発→サンクトペテルブルク21時30分着(火・木・日、4月21日~10月27日)

【サンクトペテルブルク→仁川】▼930便=サンクトペテルブルク23時発→仁川13時40分着(翌日着、サンクトペテルブルク発:火・木・日、4月21日~10月27日)

【仁川→イルクーツク】▼983便=仁川20時50分発→イルクーツク0時5分着(翌日着、仁川発:月・金、5月13日~6月30日) / 仁川17時55分発→イルクーツク21時15分着(月・金、7月1日~10月28日) ▼984便=イルクーツク2時15分発→仁川7時5分着(火・土、5月13日~6月30日) / イルクーツク23時55分発→仁川4時45分着(翌日着、イルクーツク発:月・金、7月1日~10月28日)

【旅行関連ニュース】

★ANA、国内・海外旅行商品の取消料免除決定 九州発着4月22日、熊本発着5月8日発まで

全日空(ANA)は熊本地震発生に伴うANAグループの国内旅行商品、海外旅行商品の取り扱いを決定した。ANAが運航する福岡・北九州・佐賀・大分・熊本・長崎・宮崎・鹿児島九州各空港発着および九州県内宿泊を含むANAセールスが造成・販売するANAスカイホリデー、あなたび、旅作の国内全商品は4月22日発分まで取消料を免除する。さらに、熊本発着または熊本、大分県内宿泊を含む同全商品は5月8日発分まで取消料免除を延長する。

また、海外旅行商品は4月22日発分までの九州8空港、5月8日発分までの熊本空港からのANAハローツアー、ANAワンダーアース、旅作、ANAマイレージクラブ会員限定ツアー、WEB限定ツアーの取消料を免除する。

ANAは航空券については、熊本空港発着便は5月8日発分までは手数料を免除。福岡・佐賀・北九州・大分・長崎・宮崎・鹿児島発着便は4月22日発分まで手数料を免除。4月23日から5月8日発分は4月16日までに購入した航空券の払い戻し手数料を免除する。

ジャルパック熊本発着商品、5月8日まで免除 JAL九州発着国際線、5月16日発分まで手数料なし

一方、日本航空(JAL)はジャルパックが造成・販売する熊本発着または熊本・大分県内宿泊商品を5月8日発分まで、九州各空港発着商品を4月22日発分まで取消料を免除する。

JALは航空券については、九州各空港の発着路線の払い戻し手数料を4月22日発分まで、熊本発着路線は5月8日発分まで免除する。JALが運航する福岡・北九州・大分・長崎・熊本・宮崎・鹿児島発着の始発から最終便の全ての便が対象。

また、国際線は熊本・福岡・北九州・大分・長崎・鹿児島空港発着路線については、4月16日以前に発券した5月16日出

発分までの航空券の払い戻し手数料を免除する。

クラツー、熊本方面旅行、5月10日まで催行中止

クラブツーリズムは4月19日、熊本を中心とする九州方面の旅行について、5月10日出発分まで催行を中止することを決めた。催行中止は熊本県内、湯布院温泉、高千穂の宿泊または観光ツアーと九州新幹線利用、熊本空港発着のツアー。

また、これら以外の九州(離島含む)、中国・四国方面の旅行は、ツアー運行に支障がある場合を除き、原則として通常通り出発する。熊本・大分県内在住で、5月10日出発までのツアー申し込み者は、国内・海外ツアー参加の有無を確認、キャンセルする場合は取消料を収受しない。

日旅、熊本などツアー取消料免除、22日まで延長

日本旅行は、4月22日出発までの熊本・大分・宮崎(高千穂エリア)の宿泊ツアーをキャンセルする場合は、取消料を収受せずに対応する。また、九州各空港利用のツアーについても取消料なしで対応する。4月18日出発分までの対応を決めていたが、22日出発分まで延長した。

★中国・香港・マカオで九州・熊本に注意喚起 阿蘇市に旅行中のマカオ女性2名、無事帰国

熊本地震の発生に伴い、中国福岡総領事館は4月16日付で、中国から九州への渡航に対して注意喚起を発出した。地震が熊本から大分、福岡、長崎、宮崎、鹿児島と九州全土に広がりを見せているとして、九州への慎重な渡航、熊本へは渡航の延期を勧めている。この注意喚起の有効期間は5月16日まで。

また、香港政府保安局も4月16日、熊本県に対して黄色の危険情報を発出した。香港の危険情報は3段階で、黄、赤、黒の順に危険度が高まる。

マカオ政府観光危機管理室(ツーリズム・クライシス・マネジメント・オフィス/GGCT)も4月16日、熊本県への渡航の見合わせと九州地域への慎重な渡航を促す注意喚起を発出した。17日の更新情報によると、地震発生直後にマカオから女性2名が熊本県阿蘇市に旅行で滞在していたが、マカオ政府から観光危機管理業務の代行を務める日本のマカオ観光局の支援と手配により、2名は大分空港から大阪行きの航空機に搭乗、関空のホテルに宿泊後、マカオ航空で無事帰国した。

★2月の旅行収支、過去最高1347億円の黒字 16カ月連続黒字、国際収支の黒字拡大に貢献

財務省が発表した2月の国際収支状況によると、2月の旅行収支は1238億円と前月、昨年4月に続く過去3番目の黒字を計上した。2014年10月以降17カ月連続の黒字とともに、単月で1000億円以上の黒字は3カ月連続、通算8回目を記録した。これまでの最高黒字は今年1月の1347億円。1-2月累計の旅行収支は2022億円の黒字と前年同期から791億円、黒字幅が拡大した。

JNTO(日本政府観光局)によると、2月の訪日外客数は前年同月比36.4%増の189万1400人で、2月として過去最高、単月として過去2番目、出国日本人数は5.8%増の133万人を記録した。

2月のサービス収支は旅行収支の黒字に加えて、知的財産権等使用料が3356億円の黒字を計上したことに加え、3カ月ぶりに1595億円の黒字に転化した。

2月の貿易収支も4252億円の黒字に転化し、これにより、貿易・サービス収支は5846億円の黒字に転化、前年度月から7892億円も収支が改善された。

この結果、2月の国際収支の経常収支は旅行収支の黒字などの貢献による貿易・サービス収支の黒字に加えて、第一次所得収支の2兆円を超える黒字で、黒字幅は2兆4349億円と前年同月から9476億円と約1兆円近くも黒字幅が拡大した。

【組織・人事】

★海上保安庁危険業務従事者叙勲(航空関係)

第26回危険業務従事者叙勲が4月29日付で発令されるが、海上保安庁の航空関係者では次の方々が受賞される。

《瑞宝双光章》

▼水谷正義=元舞鶴海上保安部巡視船だいせん航空長

《瑞宝単光章》

▼五十嵐幸雄=元第一管区海上保安部千歳航空基地通信長

▼上田泰二=元関西空港海上保安航空基地上席整備士

▼柿崎清司=元第一管区海上保安部函館航空基地整備士

▼月輪俊治=元第六管区海上保安部広島航空基地主任整備士

▼西塚栄=元第三管区海上保安部羽田航空基地上席整備士

★国土交通省人事

(4月10日付)

▼辞職(八尾空港事務所付) 宮脇久和